

行せるも第2大隊は6月19日火砲全部破壊せられ戦闘力を失う他の大隊は6月22日までに大体戦闘力を失う

沖縄作戦における工兵第24連隊史実史料(24P)

昭和22年3月25日

第32軍残務整理部

沖縄進駐前の履歴の概要

1. 昭和9年4月独立混成旅団工兵中隊として編成せられ満州公主嶺に駐屯す(其の間同地付近の警備並びに北支事変に参加)
2. 昭和13年3月部隊は2ヶ中隊に改編せられ独立混成旅団工兵隊と改称せらる(部隊長川村大佐)
3. 昭和13年7月第1中隊(中隊長 安藤進大佐)を騎兵第4旅団の指揮下に入らしめ北支中支に派遣す
4. 昭和13年ノモンハン事件に依り第2中隊(当時安岡兵団の指揮下にあり)出動
5. 昭和14年12月部隊は第24師団編成と共に工兵第24連隊と改称せられノモンハン事件終局するや満州国東安省東安に移駐同地に於て国境警備に服す(部隊長 沼崎恭平大佐)
6. 昭和15年5月北支派遣中の第1中隊(北支派遣騎兵旅団編成改正過剰人員)は工兵第24連隊に原隊復帰をなす
7. 同年部隊編成改正にともない甲装備に編成せらる
8. 昭和16年3月児玉詠光大佐補職せらる
9. 昭和19年7月6日部隊に動員下令
10. 同年7月13日東安省東安出発、7月19日小倉着、昭和19年8月1日門司湊出発、同月5日沖縄那覇港に上陸せり

部隊戦闘開始時の編成

工兵第24連隊編成

長	陸軍大佐	児玉詠光	第1中隊長	陸軍中尉	江井 全
副官	陸軍中尉	加藤廣一	第2中隊長	陸軍中尉	中山四加次
教育主任	陸軍中尉	堀口 博	第3中隊長	陸軍中尉	江瀨 陸

主計	陸軍主計中尉	前川保晴	兵器	陸軍兵器准尉	
獣医	陸軍獣医中尉	棚川 實		岡山敏男	
衛生	陸軍軍医大尉	中村正男		同	小林幸雄
衛生	陸軍軍医大尉	久野昌一	器材小隊長	陸軍少尉	佐々木節夫

防衛召集 250名
 兵力 750名 (概数にして詳細不明なり)
 合計 1000名

指揮隷属・配属関係

1. 作戦開始前

第24師団隷下

2. 作戦開始後

第1中隊を歩兵第22連隊に

第2中隊を歩兵第32連隊に

第3中隊を歩兵第89連隊に配属す

器材小隊を連隊本部直属

部隊戦闘経過の概要

昭和19年7月13日 東安出発博多港に上陸し約2週間小倉に駐屯せり
 8月 1日 沖縄に向かうべく門司港出帆す
 8月 5日 那覇港に上陸し嘉手納に進駐す、以後石嶺、久得に在りて周辺の防備及び陣地構築に従事す
 10月10日 敵機約800機空襲し来るも人員1名戦死せるのみにて大なる損害無し
 12月 6日 武部隊の転進に伴い島尻郡高峯村大里に転進以後付近の防衛及び陣地構築に任ず
 昭和20年3月23日 多数の敵機来襲、甲号戦備を全くし戦闘配備を完了す
 3月24日 敵機動部隊進攻し艦砲射撃を開始す
 4月 1日 敵嘉手納、北谷正面より上陸を開始す

4月27日 連隊長以下首里市赤田町に転進す
 5月 4日 第2次総攻撃に参加し敵に大なる損害を与えたるも我も亦人員の損失大なり
 5月29日 首里撤退 島尻郡高峯村字大里に転進す
 6月10日 敵首里に殺到し来り連隊長は新垣に転進す
 6月22日 全員壮烈なる挺身斬り込み及び戦車に体当りを敢行す 児玉連隊長は壮烈なる戦死を遂げ将校以下大半戦死し生存者僅かに20数名なり

戦果

首里転進後は本部及び器材小隊を除き各3ヶ中隊は各歩兵連隊に配属になり、地雷埋設及び肉迫攻撃挺身斬り込みにより戦車を爆破炎上するもの40~60両トラックその他多数

敵の人員殺傷に付きては全く不明なるも相当の損害を与えたるものと思せらる

大里後退の後は各部隊と共に協力し困難なる状況下能く敵の鋭鋒を破り以つて全軍の意気を高揚せり、殊に地雷の埋設は巧妙を極め能く敵の戦車群の進出を阻止し莫大なる損害を与えたり

松茂2中隊松山少隊は首里に於て地雷埋設及び斬り込みにより一挙に敵戦車16両を爆破し軍司令官より感状を授与せられたり

第2中隊志田小隊

田口伍長以下3名は首里に於て敵中深く斬り込みを敢行し戦車3、自動車3、幕舎監視兵3名、人員殺傷50の戦果を挙げ師団長より賞状を授与せられたり

その他壮烈鬼神をも泣かしむる勲功を樹てたるもの枚挙にいとまなきも遂に敵の圧倒的物量及び兵力に神かけたる勇士の勇戦も遂に戦局を好転せしむる事能はず遂に全員壮烈なる戦死を遂げるに至れり